

# 「旧陸軍被服支廠を見て学ぶ会」に80人！



県原水協は、11日（土）、原爆遺跡保存運動懇談会・県被団協とともに「旧陸軍被服支廠を見て学ぶ会」を行いました。急な呼びかけにもかかわらず、80人が参加。6日から県が中庭の工事を始めたため、県工・皆実高の入口道路を借りて学習会を行い、最初に森代表理事が、最初に森代表理事が、県が貴重な遺産である被服支廠を1棟のみ残して解体すると発表したことを受けて急きょ計画

したと挨拶。続いて、高橋代表理事・保存懇副代表が、兵器廠・糧末廠とともに朝鮮・中国への侵略戦争に兵隊を送り出す重要な兵站拠点・「加害のヒロシマ」を形成した被服支廠の成り立ちと役割を解説。続いて当時学徒動員で作業中に被爆した切明千枝子さん（90）が



「兵隊の血のついたシャツ」を洗うなどした当時の作業の様子や、被爆時は全身やけどで水膨れした人たちの救護活動をしたものの、次々と亡くなっていったことなど、壮絶・飛散な体験を報告されました。

その後、新婦人県本部が発効する「木の葉のように焼かれて」編集委員の山野井恵子





さんが原爆詩人・峠三吉の「倉庫の記録」を朗読。さらに戦後4号棟（国所有）にあった広島大学薫風寮で70年代に2年間過ごした高見篤巳さんが、「県が1棟だけ残して解体するなら、国もすぐ解体する。全部残すことが重要」と訴えました。そして最後に県被団協の佐久間理事長が、全棟保存・活用させるために声をあげて行こう、と閉会挨拶しました。その後、参加者は3グループに分かれて建物を見てまわり、窓の鉄扉が大きく湾曲している2号棟前では立ち止まってしっかり

説明を聞き、分厚い鉄扉の曲がり具合に見入っていました。また、国所有の4号棟前では、高見さんが当時住んでいた部屋を指さし、その生活ぶりを説明していました。

県は、一昨年の大阪北部地震でブロック塀が倒壊して児童が犠牲になったことから、急に耐震補強が必要でお金がかかることを強調し始め、昨年12月、そのことを最大の根拠に「1棟のみ保存」を打ち出したものです。県は16日まで「パブコメ」を募集しています（これ自体、きわめて短期間で「アリバイ作り」の感があります）。「広島県 旧陸軍被服支廠 パブコメ」で検索すると出てきます。ぜひ“全棟保存を”の声を集中しましょう。



◆18日（土）には、新婦人の「木の葉のように焼かれて」編集委員会が見学会を行います。午前10時、現地集合。

行き方は

電車⑤「比治山下経由広島港行き」で「皆実町2丁目」下車。東へ徒歩約10分。①③「広島港行き」で「皆実町6丁目」下車、商店街を北東へ徒歩約15分。広島バス23「大学病院行き」または26「旭町行き」で「出汐町」下車。23-1「大学病院行き」または26-1「旭町行き」の場合は「大学病院入口」下車。